

東建パブリニュース

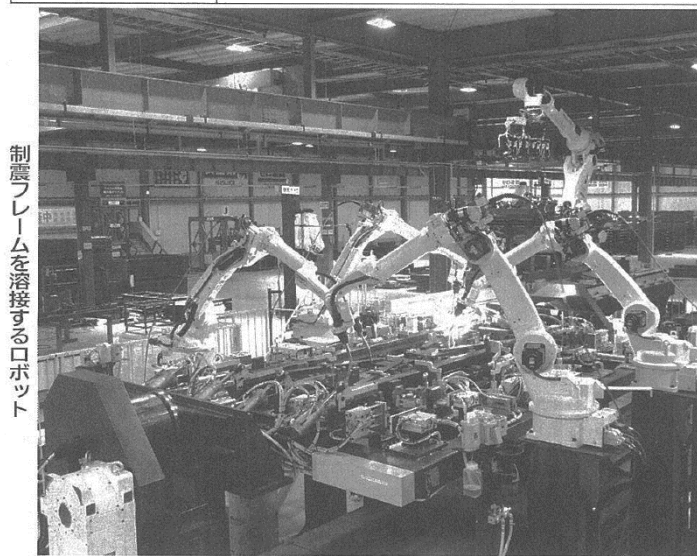
平成30年6月5日

経営管理本部 広報IR室

《このニュースは、当社に関連する記事が掲載された新聞・雑誌等の情報を逐次、速報するものです。》

掲載 平成30年5月18日 日刊工業新聞 P.10

●当社に関する記事の掲載がありましたので、以下の通りご報告いたします。



制震フレームを溶接するロボット

ナスラック/NK深谷工場

アパート用制震フレーム

自動化ラインで生産性5倍

ナスラック(名古屋市中区、左右田稔社長、052・232・8030)のNK深谷工場(埼玉県深谷市)は、親会社の東建コーポレーションの主力商品である高耐震鉄骨造アパート「シエルシリーズ」(用鉄骨などを生産している)同アパートに用いる制震フレームの自動化

ラインを3月に新設した。新ラインは溶接ロボット4台とハンドリングロボット1台、カメラマグネットをクランプに切り替え、溶接後のフレームを検査台へ搬送する。カメラは部材ストッカードで溶接前の部材を位置、溶接ロボット4台での同時溶接により「フレームの歪みを最小限に抑える」(石川裕巳副工場長)。

溶接用のテーブルや治具は、ロボットが裏面に廻りやすいように穴が開いている。「テーブルや治具の強度と形によって精度を出し

▷50

発見！ 先進の現場

見極めるため(同)シミュレーションを繰り返した。ハンドリングロボットは溶接中にマグネットをクランプに切り替え、溶接後のフレームを検査台へ搬送する。カメラは部材ストッカードで溶接前の部材を位置、溶接ロボット4台での同時溶接により「フレームの歪みを最小限に抑える」(石川裕巳副工場長)。

溶接用のテーブルや治具は、ロボットが裏面に廻りやすいように穴が開いている。「テーブルや治具の強度と形によって精度を出し

従来は手作業で「順番に溶接するので熱変形による歪み」(石川副工場長)を解消していた。現在は自動化、スピード向上を図る。(金曜日掲載)